

SAA と大学アーカイヴズについて

1. はじめに
2. SAAについて
3. 「大学アーカイヴズ」と日本の現状

小川千代子

本稿は米国のアーキビストたちの研究促進あるいは相互連絡のための中央機関であるSAA (ソサエティ=オブ=アメリカン=アーキビスト, Society of American Archivists)を紹介するとともに、その一部門である大学アーカイヴズについて、その活動、内容、職員等を記し、あわせて日本国内の大学アーカイヴズの現状を概観するものである。

1. はじめに

SAA (ソサエティ=オブ=アメリカン=アーキビスト, Society of American Archivists)の紹介にはいる前に、「アーカイヴズ archives」¹⁾の意味について簡単に述べておこう。辞書には「archive 名詞. 1. (通例 pl.) 古記録: 一家族・共同社会・国家・歴史上の人物などに関する記録。2. (pl.) 記録保管所, 官文庫 (特に公記録・歴史文書を保管するもの)。3. (広範囲にわたる) 記録 (record), 資料のコレクション²⁾」と記されている。本稿では「アーカイヴズ」を上¹⁾の1, 2の意味を複合し、「ある一族, 一共同社会, あるいは国家, 歴史上の人物などに関する記録を保管し, 利用の便をはかる機関」と捉える。このような機関に相当するわが国の国公立の機関としては「中央」に関する国立公文書館, 地方自治体に関しては東京都公文書館, 埼玉県立文書館など都府県立のものから, 細かくは各市町村立の郷土資料館までさまざまな名称のものがある。

「アーカイヴズ」において専門職員として記録類の保存, 管理, あるいは利用の便をはかる等の業務にたずさわる人が「アーキビスト archivist」である。現在のところ「アーカイヴズ」「アーキビスト」に対応する適確な日本語がないので, 本稿ではそのまま「アーカイヴズ」「アーキビスト」を用いることにしたい。

さて, 欧米諸外国の大学には例外なく「ユニバーシティ=アーカイヴズ」(以下「大学アーカイヴズ」と略す)と呼ばれる機関が設けられているが, このことは, 東京大学百年史編集室が発足した昭和50年頃から知られていた, 極めて興味あることがらであった。しかるに, 昭和55年夏, 業務の一環として世界39カ国約500の大学を対象として大学アーカイヴズに関して, 1. 設立年代, 2. 運営方法, 3. 業務内容, 4. 利用状況の四項目についてアンケート調査を行う機

次にSAAの会員資格、年次会合その他の事業等についてみていこう。

会員資格

SAAは会の目的に賛同する個人又は団体であれば誰でも入会することが出来る。個人の場合は本人の年収に応じて会費が定められているが、団体の場合は一律である。この会員がおさめる会費がSAAの運営資金となること、寄附金は会の運営の円滑化に非常に役立つことが、パンフレットには明記されている。これはアメリカの「お国ぶり」であろう。

会員には機関誌『ジ・アメリカン・アーキヴィスト』、会報『ニューズレター』の他、年次会合案内、事務局長通信が配布される。また、SAA出版物の割引購入の特典もある。

年次会合等

SAAの年次会合は毎年秋に開催される。この時にはアーキヴィストが一堂に会し、共通の問題や次年度の活動方針等について意見の交換を行う。またテーマを設けて研究会やシンポジウムを開いたり、開催地のアーカイヴズや史跡の見学会、懇談会などの催しも行われるようである。

このほかSAAだけでなく他の関連専門家との交流をはかるために American Historical Association, Organization of American Historians, American Library Association 等との合同会議も毎年定期的に開催している。

出版物

SAAの機関誌、『ジ・アメリカン・アーキヴィスト』The American Archivist は季刊である。これには記録保存の理論と実際に関する論文、年度毎の文献目録、書評、ニュース、諸外国定期刊行物の主要記事抄訳等が掲載されており、北アメリカ地域の記録保存学分野の情報源の中心的役割を果たしているという。この機関誌はSAA会員全員に配布される。また会員以外でも予約購読が出来る。同誌のバックナンバーは1979年までがマイクロフィルム化されており、フィルムの販売が行われている。



『ジ・アメリカン・アーキヴィスト』

機関誌に加え隔月刊の会報『ニューズレター』Newsletterがある。これは会員には配布されるが会員以外に対する販売・予約購読の便は計られていない。この会報には、アーカイヴズ業務にかかわる重要法案等についての解説、アーカイヴズ業務に関連ある会合、研修会等の日程その他が報せられる。

機関誌に加え隔月刊の会報『ニューズレター』Newsletterがある。これは会員には配布されるが会員以外に対する販売・予約購読の便は計られていない。この会報には、アーカイヴズ業務にかかわる重要法案等についての解説、アーカイヴズ業務に関連ある会合、研修会等の日程その他が報せられる。

定期刊行物以外にもSAAではマニュアル、論文・研究ノート、文献目録、大学・各州政府・企業・教会等各分野別アーカイヴズ名鑑、アーカイヴズ教育講座等々の出版を行っている。本節末にその1981年度出版物一覧を掲げる。

委員会活動

SAAの活動計画は毎年、SAA会長が指名する委員会が主としてその実行にあたる。例えば史料保存方法、コンピューター導入等による自動化の問題、文書の収集・整理・分類、更には後進の指導・養成等々アーカイヴズ業務に関するさまざまな問題についての集中的な研究がこの委員会で行われる。また、鑑定基準、閲覧、史料の寄贈交渉、検索フォームの研究なども委員会の仕事となっている。各分野別アーカイヴズ名鑑（個人、機関）の編集も委員会が担当している⁹⁾。

求人・求職

SAAでは会員に対する求人・求職斡旋を無料で行っている。その方法は、会報『ニューズレター』にアーカイヴズ職員の新規採用情報を掲載したり、各アーカイヴズ宛に求職者リストを送附したりすることによるものである。

SAA出版物一覧 (SAA Bookcase, October 1981 による)

1. Archives & Manuscripts: Appraisal and Accessioning, Maynard Brichford, 1977
2. Archives & Manuscripts: Arrangement & Description, David B. Gracy II, 1977
3. Archives & Manuscripts: Reference & Access, Sue E. Holbert, 1977
4. Archives & Manuscripts: Security, Timothy Walch, 1977
5. Archives & Manuscripts: Surveys, John Fleckner, 1977
6. Archives & Manuscripts: Exhibits, Gail Farr Casterline, 1980
7. Archives & Manuscripts: An Introduction to Automated Access,
H. Thomas Hickerson, 1981
8. Basic Glossary for Archivists, Manuscript Curators, and Records Managers,
SAA's Committee on Terminology, 1974
9. Inventories and Registers: A Handbook of Techniques and Examples,
SAA's Finding Aids Committee, 1976
10. Records Retention and Disposition Schedules,
SAA's State and Local Records Committee, 1977
11. The American Archivist, 35mm microfilm, 1938-1979
12. The American Archivist, Index 1938-57
13. The American Archivist, Index 1958-79
14. A Code of Ethics for Archivists, 1980
15. Archivists and Machine-Readable Records,
Carolyn Geda, Eric W. Austin, and Francis X. Blouin, Jr., 1980

16. Basic Bibliography for Conservation Administrators, 1981
17. Business Archives: An Introduction, Edie Hedlin, 1978
18. College and University Archives: Selected Readings, 1979
19. A Donor's Guide to the Preservation of Personal and Family Papers and the Records of Organizations, SAA's Committee on Collecting Personal Papers and Manuscripts, 1980
20. Fakes and Facsimiles: Problems of Identification, Leonard Rapport, 1979
21. Management of Archives and Manuscript Collections for Librarians, Richard Lytle, 1980
22. Photographs as Historical Evidence: Early Texas Oil, Walter Rundell, Jr., 1978
23. Religious Archives: An Introduction, August Suelflow, 1980
24. PAK Problems in Archives Kits I: Appraisal, 1979
25. PAK II: Security, 1979
26. PAK III: Starting an Archives, 1980
27. PAK IV: Archival Processing Costs, 1981
28. PAK V: Can You Afford Records Management? 1981
29. PAK VI: Developing a Brochure, 1981
30. PAK VII: Records Management for Religious Archivists, 1981
31. PAK VIII: Local Government Records, 1981
32. PAK IX: Finding an Archival Position: Resumes, Application Letters, and Interviews, 1981
33. Automation, Machine-Readable Records, and Administration: A Select Bibliography, Richard M. Kesner, 1980
34. Directory of Business Archives in the United States and Canada, SAA's Business Archives Committee, 1980
35. Directory of College and University Archives in the United States and Canada, SAA's College and University Archives Committee, 1980
36. Directory of State Archives in the United States, 1980
37. SAA's 1981 Membership Directory, 1981
38. Modern Archives and Manuscripts: A Select Bibliography, Frank B. Evans, 1975
39. A Select Bibliography on Business Archives and Records Management, Karen M. Benedict, 1981

40. A Selective Bibliography on the Conservation of Research Library Materials,
Paul N. Banks, 1981
41. The WPA Historical Records Survey: A Guide to the Unpublished Inventories,
Indexes, and Transcripts, 1980
42. The Management of Archives, T. R. Schellenberg, 1965
43. Modern Archives: Principles and Techniques, T. R. Schellenberg, 1956
44. Norton on Archives: The Writings of Margaret Cross Norton,
Thornton W. Mitchell, 1975

3. 「大学アーカイヴズ」と日本の現状

前節にみたように、米国にはSAAを中心としたアーカイヴズとアーキヴィストの組織があり、「大学アーカイヴズ」はその中の一部門として横のつながりを持っている。「大学アーカイヴズ」の存在意義と、そこに保管されている資料の重要性について、E. J. ブレンドン⁹⁾はSAAの機関誌『ジ・アメリカン・アーキヴィスト』1975年4月号所収の論文「大学アーカイヴズ—一つの存在理由」の中で、次のように述べている。

研究者は遠路はるばる米国国立公文書館まで出かけて行き、多くの先行研究者が幾度となく目を通した資料に同じように目を通して初めて、自分の目と鼻の先にある大学アーカイヴズが……どれ程多くの貴重な資料を所蔵していたのかということに気づくのである。(後略)

大学アーカイヴズの資料は次の五分野における研究に対し特に有用であろう。(1)大学史、(2)学生思想史、(3)社会史、(4)政治史、(5)史料書編纂。(中略)中でも大学史編纂を行う場合には、大学関係史料を十二分に活用することが出来る。

SAA発行の1980年版『アメリカ、カナダ大学アーカイヴズ名鑑』には約1000もの「大学アーカイヴズ」が収録されており、ブレンドンが言うような役割を実際に果たしている。先述のアンケート結果によれば、ほとんどの大学アーカイヴズは図書館と同様、学生、教職員、学外研究者、一般市民に対して公開されている。

言い換えるなら米国においては、大学に関する歴史研究のための、史料保存及び利用のシステムがほぼ確立しているということになろう。しかも、そのシステムの確立の中心的役割を果たしたSAAの発足母胎となったのが、実は大学アーカイヴズの人々であった。

上のような大学アーカイヴズの設置は決して米国に限るものではない。東西ヨーロッパの諸大学をはじめ、アジア、アフリカ、オーストラリアなど比較的新興の大学にも大学アーカイヴズはごく普通に見られるのである。先述の外国大学アーカイヴズに関する調査の回答をみても大学にアーカイヴズを設けることは至極当然のこととされている感があった。

ひるがえって日本の現状に目を向けると、近年、国立公文書館をはじめとする国公立機関としてのアーカイヴズ(多くは「文書館」「公文書館」等と称される)は見られるようになって

きているが、「大学アーカイヴズ」については全く立ち遅れた状況にある。百年史編集室が昭和55年に国立大学を対象に行ったアンケート調査の結果では、大学アーカイヴズに該当する施設を持つと考えられるものは回答のあった59校のうちわずか8校に過ぎず、そのうちで大学アーカイヴズの名称を冠するものは東北大学記念資料室（英語名 Tohoku University Archives）が唯一のものであった。当然のことながら大学相互の連絡組織といったものはなく、「アーキヴィスト」に該当する担当者の存在さえ皆無に等しかった。

全般に、我が国の国立大学においては、各大学の創立以来の文書類の保存・管理は、各担当事務部門の責任に委ねられている模様である。したがってそれらの文書のうち、事務担当者にとって当面の必要性が失われた文書類——本来ならば「大学アーカイヴズ」が保存・管理すべき資料類のうちでも、根幹となるべき文書類——が結局のところ廃棄される運命にあるのが実情である。加えて国立大学の事務部門の人事異動は最近特に激しい。身近に東京大学の場合を見てもわずか10年たらずの間に一つの課の全員が入れ替わってしまい、過去の文書類の検索に不便をきたしている例がある。また、事務局の庁舎新築・移転の際には、各事務部門から大量の「不要文書」が放出された。それ以外にも新庁舎の保管場所の不足から箱詰めされたまま仮倉庫に放置されている文書は膨大な量にのぼると思われる。こうした動きはいずれも「文書」の廃棄につながるものであって、これは「大学アーカイヴズ」の基本となる資料が失われていくことに他ならない。

ここで資料が幸いにも残された一例を挙げておこう。昭和初年、『東京帝国大学五十年史』の編纂に際して集められた史料は、現在東京大学総合図書館に「五十年史料」として280点が残されている。しかし、『東京帝国大学五十年史』の編纂に携った大久保利謙氏（現在、百年史編集委員会委員）はこの史料コレクション「五十年史料」の名称を御存知でなかった。百年史編集室が調べたところでは、昭和7年の『東京帝国大学五十年史』の編纂終了後、この編纂事業に用いられた関係史料は、それ迄五十年史編纂室にあてられていた総合図書館の一室に、ほとんどそのまま30年近くの間放置されていたらしい。その後、昭和30年代の後半になって図書館職員の手により総合図書館所蔵「五十年史料」として現在の形に整理されたという。今日、「五十年史料」をみると、「庶務課」の黄ばんだ古いラベルと、その上に貼付された「五十年史料」のラベルの二種類を見ることができる（口絵参照）。

長期間史料が放置されていた場所が、幸運にも図書館の一室であったために「五十年史料」は現在まで保存され得たのである。放置期間が余りにも長かったため、本来の所有者であった庶務課からはその史料の存在が忘れ去られ、その結果抵抗感なしに図書館側にその所有権が移されたのであろう。しかし、現存する「五十年史料」は『五十年史』編纂時に集められた学内保存文書の全体ではない。例えば医学部が旧蔵し編纂終了後に同学部に返還された300冊余の記録類は、終戦後の紙不足の中で、反古として紙の交換に出されてしまって、現在ではほんの

数冊しか残っていないというありさまなのである。

以上のべたように、歴史記録の保存・利用という観点から我が国の国立大学を欧米諸外国の大学と比較した場合、我が国は全く立ち遅れている。「大学アーカイヴズ」の施設がないのは無論のこと、大学創立以来の足跡を示す歴史資料である文書類の保存さえも、その書類を管轄する事務担当者の個人的意志に左右されるという不安な状況におかれているのである。

日本における大学の歴史とは、即ち近代日本の学術史ならびに高等教育史の大きな部分を占めるものである。従って各大学がその創立以来今日までの間に蓄積してきたさまざまな文書類＝資料の中には、研究上重要な価値を持つものが決して少なくない。それにも拘らず、廃棄されたり散逸の危険にさらされているものがあるなど、大学の文書は系統的な保存、活用の態勢からはほど遠い状況に置かれている。これは歴史として過去を顧みることを大切にしない風潮に因るものかもしれない。だが、一旦失われてしまった資料は決して元はもどらない。実行に移すにはまだ多くの問題、課題が予想されるが、歴史資料たる文書類を系統的に保存整理し、更には活用できるような方向で、日本においても「大学アーカイヴズ」の必要が広く認められ各大学に「大学アーカイヴズ」が設けられることを望むものである。

注

- 1) 東京大学『学内広報』No.485掲載「百年史編集室通信」No.33では「英語の archives を“アーカイヴ”と音訳する」としている。
- 2) 『小学館ランダムハウス英和大辞典』による。
- 3) 米国の大学アーカイヴズに関するアンケート調査結果については、東京大学創立百年記念学術研究奨励資金による学内共同研究『東京大学関係諸資料の保存と利用に関する予備的研究』昭和56・57年度研究調査報告（昭和58年6月、同研究グループ）中のⅡ・1「諸外国の大学文書館」に一部発表した。
- 4) 特に College and University Archives Guidelines (The American Archivist, Spring 1980) については全文コピーを送ってきた大学だけでも5校あった。出版目録は3校がコピーを送ってくれている。
- 5) The Harvard University Archives in 1938 and 1969, Harvard Library Bulletin Vol. 18, No. 2
- 6) 別に ICA「国際公文書館会議 (International Council on Archives)」という組織がある。これは主に各国の国立公文書館 (National Archives) を対象とした組織で、SAA のように対象となるアーカイヴズの種類は多くない。特に、今回関心の中心である「大学アーカイヴズ」の連合組織としては考えにくいものである。
- 7) 日本の『ジ・アメリカン・アーキヴィスト』定期購読者(機関)は1981年現在12件ある。このうちわけは企業6件、大学5件、それに国会図書館1件となっていた。因みに大学は全て私立大学である。
- 8) 1981年版 SAA 出版目録には企業アーカイヴズ名鑑 Directory of Business Archives in the United States and Canada, 大学アーカイヴズ名鑑 Directory of College and University Archives in the United States and Canada, 官公庁アーカイヴズ名鑑 Directory of State Archives in the United States の三種が掲げられている。このうち、大学アーカイヴズ名鑑には約1,000大学アーカイヴズが収録されている。収録情報は索引コード、名称、代表者名、所在地、電話番号となっており、米国については各州別、カナダは一括でアルファベット順に配列されている。また巻末には機関名索引と代表者名索引が付されている。前書きによれば、この名鑑は「今後必要に応じて容易に改訂

SAAと大学アーカイヴズについて

を行えるように」全ての情報処理はコンピューターで行っているという。

- 9) Edith James Blendon 1972～74年プリンストン大学アーキヴィスト, その後同大学でウッドロー・ウィルソン全集の編集にあたっている。

(おがわ ちよこ・百年史編集室)